

美波町の皆さまへ

ひろこのつばやき…ふるさとへの想い

新春のできごと

平成26年1月3日、美波町成人式が盛大に開催されました。二十歳を迎えられた新成人の皆さんの輝く笑顔から、誇らしさと新たな希望に満ちた意欲が伝わってきました。私自身も気持ちが引き締まり、万歳三喝前のひと宮の中で、「新成人の皆さんがこれからも暮らしやすい、またいつでも安心して戻れる場所であるよう、これからもこの町を守り、しっかりと創っていくことが、今ここに暮らす私たちの役割だと思う。」と気持ち新たに、述べさせていただきました。

私のふるさと

私は10年前、この町に帰ってきました。帰ろうと思った時、帰れる場所はやはり生まれ育ったふるさとでした。中学校を卒業して、生活のほとんどが町外になっても、ふるさとに誇りが持てたら、ふるさとに愛着があれば、いつか帰ろうと思う瞬間がある。私は、そう思います。

「人の絆」と「美波のこれから」

時代は移り変わり、今では生活の営みの中で、何もかもが選べる（選ばれる）時代になってきています。

選球が進むことは避けられない現実です。でも、何かができると思うのです。魅力的な教育があれば、行ってみよう、住んでみようと思うはず。安心して暮らせる福祉環境があれば、ここに住み続けようとするはず。元気な高齢者が寄り合えば、新たな働き甲斐、生き甲斐も育めるはず。若者も少ないし、大企業もないし、住む場所もないし・・・。たとえそれが現実だとしても、何もないからって何も出来ないわけじゃない。まちの力はここで暮らすみんなで作るもの。その何かを見つけ、広げることも、私の仕事だと思うのです。

子どもの笑顔は、みんなの宝物

「子どもたちみんなが笑顔のまちにしたい！」いつも私が心に描いているまちです。子どもは親の鏡。だから、子どもたちが笑顔のまちはきっと、私たち大人が笑顔のまち。大人が元気なまち。子どもには反抗期や思春期もあるから、言ったことと反対のことをしたり、時には理屈に燃え、親以上に大人びた意見をいうこともあるけれど、やっぱり子どもは親の宝、地域の宝。その笑顔を守ることが、私の仕事だと思うのです。

ここで生活する「主役は、わたしたち」

ここに生きている男性・女性。これまでの実績を創ってこられた高齢者、町を担う大人、将来を担う若者、未来へつなぐ子どもたち。そして、決してお金では買うことのできない、この豊かな自然。長い年月をかけて育まれてきた、人の絆。

共に調和し、共生しあえる美波町を実現できたらと、心から思います。子どもたち、そして私たちが、自慢できるまちを、一緒に作っていきましょう!!